

令和元年度 東近江市市民協働推進委員会

第1回佐野自治会訪問報告

◆開催日時 令和元年8月7日(水) 19:00~21:00

◆開催場所 佐野自治会館

◆出席者 佐野町自治会執行部 3名
佐野自治会OB会 8名
佐野いきいきサロン役員 2名
佐野老人クラブ役員 4名
協働推進委員 6名
事務局 2名

◆協議内容 「佐野町自治会の概要、現状、課題と意見交換」

【内容主旨】

<自治会長OBから>

- ・宅地開発が非常に急速に進んだため、新興住宅は旧来の自治会に入ってもらのではなく別の自治会としてきた。良し悪しの評価は難しいが、隣近所だが自治会が異なり、名前も分からないという状況はある。問題だと思うが、どのように解決していくかは難しい。
- ・財政的には裕福な方だと思う。それは良かったが、開発の区域もあり、自治会としてまとまって何かをするには、あまりにも分散しすぎており難しい状態。
- ・新興住宅の住民は、総会出席一回のみ。ほとんど自治会活動には参加していない。その点をいかに活性化していくかということが求められるのでは。
- ・自治会活動の課題は「いかに組の活動を活性化するか」と思う。原因は高齢化と少子化ではないか。
- ・自治会長時代を振り返って残念と思うことは、佐野の役員選挙方法について。役員になれば(自治会活動に)参加すると思う。佐野の選挙の方法が、高齢者中心の選挙になっているので、若い人に選挙をやらしてもらえばどうか。そこで経験し、その後の活動ができると思う。
- ・選挙制度を考え直してはどうか。被選挙者名簿が古い。世帯主が掲載されるため年配の家長ばかり名前が連なっている。その下の世代の名前が無い。強制的に持ち回りにする、推薦にするなど。若い人中心の活動に変えてはどうか。20代30代に任せる案等構想していたが、提案する機会がなかった。
- ・人が集まらないという事について。子ども会の役を35年ほど前していた。盆踊り等南小学校をかりてやっていたが途切れた。「人が集まる」という機会がだんだん削られていき、今は自治会だけになっている。いろんな行事をやっても人が集まらない。
- ・ここは田舎だが、「隣の人はようわからん」と都会と全く同じようになりかけている。子ども同士知り合いになり、親も知り合いになって、街で会ったら声をかけるくらいの関係性が構築できることが理想。そのような機会がないと孤立していき「他人のことは関係ないわ」と言ってしまう状態になる。
- ・自治会長をした時言われて一番驚いたのは、小学校の朝ラジオ体操について「ラジオ体操がうるさい、やめてください」という苦情が来たこと。自分は昔からの田舎育ちで、そのような苦情が来るとも思っていなかった。事情をきいてみると、「夜勤をしているからその時間邪魔になる」と。ラジオ体操自体は半時間位だが、その後遊んでいる声がうるさいと。周辺の人を気遣うこともなく「誰かがやって

- くれるだろう」という発想。自分の家の前でも、敷地を出れば「行政がすべき」と何でも思っている。
- ・少子化もだが、同居している家庭がどれくらいあるかということも問題ではないか。
 - ・昨年非常に問題となったのが、田んぼの用水路の清掃。宅地開発で田んぼが減少。現在田んぼをしている2～3件の人が、佐生の方までやっている。今までずっと問題視されてきたが解決できていない。
 - ・全体がもっと幅広く顔をあわせるような、何かそういう事例があると参考になる。何か教えてもらいたいと感じる。
 - ・佐野自治会の一番の強みは事務局長と事務員2名が常時いて運営されていること。自治会長をした時は現役サラリーマンだった。事務局長がいたので勤めながらできた。
 - ・事務局長がずっといて、諸問題をほぼ把握していただいているということが強み。

<いきいきサロン役員から>

- ・サロン開催メンバーは、ボランティアで女性が13人、男性が3人、全部で16人。
- ・80歳以上の高齢者又は70歳以上の独り暮らしの人を対象、登録制。60人程。事業するとき出欠をとっている。
- ・事業内容は、主に食事会。毎週月曜日は喫茶サロン。佐野自治会館でカラムを楽しんだりお茶を飲んだりしている。できるだけ家から出て、皆で和気あいあいとすごして欲しいと思い実施している。
- ・問題点は、ボランティア側も高齢化していること。70歳、中には80歳を超えている方が16人中2人いる。後継者を何とか引っ張ってきたいと思っている。

<老人クラブ役員から>

- ・佐野は、人数規模は大きいが入会率は非常に低い状態。隣の栄町も同様で非常に（加入率が）低い。
- ・65歳以上は強制的に加入という他地区は、スポーツ大会で常に優秀な成績を納め、バス旅行も和気あいあいとして大人数で出掛けている。佐野は何とか役員が出て人を集めるような状況。

(委員) 自分の所の自治会は、自治会員全員が名簿に載る。家長以外も役員になることを承諾してもらっている。そのかわり、同じ家から複数の役員は当たらないようには配慮している。

(委員) 佐野は、“組”での活動が活発なことが特徴的と感じる。

(委員) いきいきサロンと老人クラブの参加者、対象者は同じか。一緒に運営していくことができれば、スタッフ側の負担が軽減され、対象者も増えるのでは。

(自治会) 両方参加している人もいれば、そうでない人もいる。

(委員) 若い世代を巻き込むと言うが、どのような形で参加してもらえそうか。

(自治会) 選挙については、高齢の世帯主のみが名簿に挙がっていることが問題と感じている。役が無いと自分から地域の活動に参加することは難しい。役割を果たしていけば活動に対して理解が深まり、楽しくなる。若い人が参加しやすい役があれば。消防団は活発に活動していて、自治会活動にも協力してくれている。しかし、これも一部の人に負担がかかっているという現状はある。

(委員) 若い世代の人に、自治会活動を始め地域に対してどのように考えているか、話をきく機会を設けることは可能か。角ばった場ではなく、リラックスした場で話し合えたら良いと思う。

<まとめ：課題と感じていること>

- ・世帯数は多いが、自治会活動への参加者が少ない。
- ・若い世代が活動の中心となっていない。 ・女性の意見をどう組み込むか。